

共に育ち 共に学ぶ

交流及び共同学習 居住地校交流

居住地校交流とは

特別支援学校に通っている児童生徒が、自分の住んでいる地域の小・中学校の授業や行事などに参加し、同年代の児童生徒と交流する取組です。

障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが一緒に学び、交流を深めることは、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生活していく、共生社会を目指すために、とても大切なことです。

特別支援学校の児童生徒にとって

自分の住んでいる地域の同年代の児童生徒と一緒に学習活動を体験することを通して、居住地域における友達関係やつながりを持ち、地域で生活する自信や力を育む機会となります。

小・中学校の児童生徒にとって

特別支援学校の仲間との活動を通して、同じ地域に住む同世代の仲間のことを知るとともに、接し方などを理解し、互いを尊重し相手を思いやる気持ちを育む機会となります。



障害理解授業

交流の事前学習として、支援学校や交流する児童生徒について紹介したり、関わり方等について学習したりします。打合せを行い、交流校のニーズや学年の実態に合わせて計画します。

活動例

<小学校>

- 小2 体育 「リレー、ボール当て」
 - 小3 図画工作 「せんとせんがあつまって」
 - 小5 図画工作 「コロがるくんの旅」
- 総合的な学習の時間「郷土の料理」

<中学校>

- 中1 美術 「あかりのデザイン」
- 中2 美術 「和菓子のデザイン」

感想

- ・元気に明るく話しかけてくれたので、緊張がほぐれて、うまく話すことができました。来年は、自分から話しかけられるようになりたいです。
- ・ビー玉の作品は、おもしろくて、難しいところもあって、楽しかったです。
- ・私たちと同じ感じで、字も上手だし、絵は私よりも上手でびっくりしました。
- ・お店で会ったら話しかけてほしいです。もちろん、私も声をかけたいです。

